

オンリーワンを目指す 物づくり企業のエコビジネス

株式会社ダイワハイテックス ECO事業部 中村 仁氏



株式会社ダイワハイテックス ECO事業部 中村 仁氏
□会社概要
「BOOK事業部」と「ECO事業部」の2事業部制。前者は書店向けに「コミックシュリンカー」や「書店関連備品」などの企画・開発・製造・販売を行い、後者は工場などの空気汚染を改善する「集塵装置トータルサポート」を展開。食品リサイクルを中心とした廃棄物処理プラントの導入も行っている。
<http://www.daiwa-hi.co.jp>

マンガ本をラップでくるむ機械「コミックシュリンカー」で圧倒的シェアを誇る物づくり企業・ダイワハイテックス。同社の推進するエコビジネスはユニークなものだった！

ダイワハイテックスは2007年に経産省の「元気なモノづくり中小企業300社」に選定された知人ぞ知る実力派企業。

同社のエコ事業は、①企業の工場などの環境設備を根本から見直す「集塵装置のトータルエンジンアリング」、②独自の燃焼方式で有害物質も排出せずゴミ問題を解決、かつ省エネルギーな「多用途焼却炉システム」、③短時間で堆肥が作れ、省スペース・無公害で循環型社会を作る「食品残渣発酵処理プラント」が三本の柱。そのいずれもが高い技術力に裏打ちさ

れたものだ。

これらのエコ事業のビジネス面について中村氏は「エコの効果のみならず、どれだけコストダウンなどのメリットがあるのかをデータに基づき、お客様に提案しなくてはなりません」と語る。「エコだから」と理由だけで導入されるケースはない。導入を決定するメリットを付与しなければならぬという。

興味深かったのは、「既存の技術でも、“エコ”は十分できます」と中村氏の発言。同社は新技術の開発の一方で、価格も低く安定した既存技術を極力利用してコスト削減と環境貢献が両立する現実、対応型のエコビジネスに知恵を絞っているのだ。

企業の置かれている「現実」や「意識」にも配慮しつつ、ユニークな技術をベースにエコ事業を推進していく同社の姿勢はやはりオンリーワンだった！

(日本大学4年 中里通)